

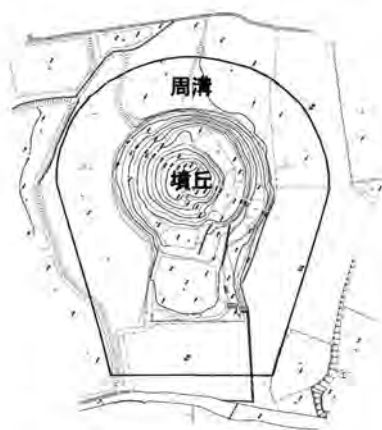
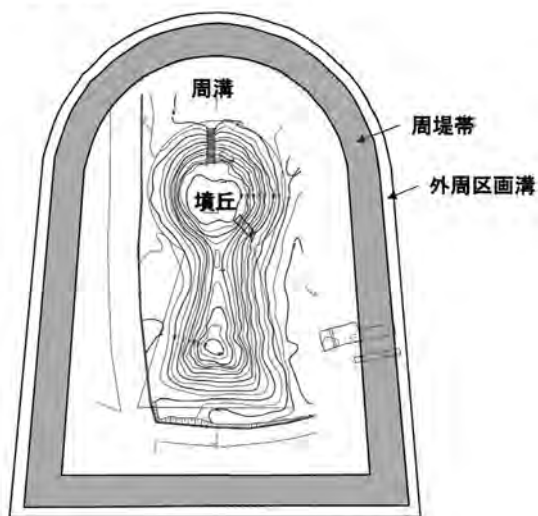
卷末資料 史跡飯田古墳群個別古墳概要

1. 高岡第 1 号古墳
2. 飯沼天神塚（雲彩寺）古墳
3. 御射山獅子塚古墳
4. おかん塚古墳
5. 姫塚古墳
6. 上溝天神塚古墳
7. 水佐代獅子塚古墳
8. 大塚古墳
9. 鏡塚古墳
10. 鎧塚古墳
11. 塚原二子塚古墳
12. 馬背塚古墳
13. 御猿堂古墳

巻末資料 注

- ・史跡飯田古墳群として指定された13基の古墳の個別古墳概要である。
- ・個別古墳名に付した番号は、本文挿図（図1 飯田古墳群分布図）の番号と対応している。
- ・個別古墳の推定復元図は、発掘調査の結果だけでなく、過去の地積図や航空写真等を参考にして作成した。今後、発掘調査等を実施する際の目安とするため、周溝等は可能な限り全周するものとして復元した。そのため、今後の調査の結果により範囲の変更がある。

図版凡例



1. 高岡第1号古墳（座光寺単位群）

所在地	飯田市座光寺高岡	
立地	標高440m 地形区分－下段（A2地形）	
墳丘	前方後円墳	主軸方向－N83° E 墳丘全長－現状72.3m 現地表からの高さ－後円部6.2m・前方部6.3m
	墳丘の保存状態は比較的良好だが、石室奥から延びる蚕種保存のための通風孔が後円部墳丘を貫通している。	
墳丘外表	葺石	墳丘表面に葺石とみられる石が確認できるほか、転落したものとみられる石が散在する。
	埴輪	埴輪は出土しているが、配置は確認できない。 ○円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪片（蓋・家形）・人物埴輪片（巫女他）・馬形埴輪片他（文①） ○円筒埴輪・人物埴輪片（文⑨）
埋葬施設	横穴式石室	主軸方向－N41° E 石室－全長5.6m×幅1.85～2.0m×高さ約1.7m
		後円部墳丘中腹に開口する竪穴系横口式石室の系譜に繋がる石室。内部に赤彩が残る。
	石室は比較的良好に残るが、開口部に改変があり、側壁の一部は通風孔設置の際に取り外されている。	
外部施設	周溝	前方部南側の調査で周溝を確認し、埋土からは埴輪が出土している（文⑨）。
	外周区画溝	前方部南側の調査で、周溝の外側を区画する溝（外周区画溝）を確認した。埋土から少量だが埴輪が出土しており、周溝との間の周堤帯にも埴輪が配置された可能性がある（文⑨）。
出土遺物	○馬具（杏葉片・鉸具片・鎖・留金具・辻金具他）・切子玉・管玉・小玉・勾玉・金環・純金金具・土師器片・須恵器片（文①） ○土師器片・須恵器片（2012年度調査・文⑨）	
調査履歴	『下伊那史』第2巻	葺石の存在、前方部北隅の削平、石室入口・側壁の改変、埴輪出土
	1982年	墳丘測量調査・横穴式石室実測調査実施（文③）
	2011年度	前方部南側（座光寺3454-2）・後円部東側（座光寺3338-1）で地中レーダー探査実施（文⑨）
	2012年度	前方部南側（同上）で範囲確認調査実施、周溝及び外周区画溝を確認（現地保存）（文⑨）
築造時期	古墳時代後期（6世紀前半）	
特記事項	●前方部が細長い墳丘形状は、飯沼天神塚（雲彩寺）古墳・御猿堂古墳と共通する。	
	●周溝及び外周区画溝を有し、周堤帯への埴輪配置が想定される。外周区画溝の存在や周堤帯への埴輪配列という特徴は、御猿堂古墳とも共通する。	
	●北本城古墳（前方後円墳・記録保存）と畦地1号古墳（円墳・現存）の石室とは、石の積み方や入口構造等の点で共通性がある。同様の構造の石室を有する古墳は、座光寺地区に所在するものに限られる。入口の構造からみて、竪穴系横口式石室の系譜に繋がる可能性がある。	
	●本古墳の周囲には、新井原・高岡・石行古墳群など5世紀から6世紀に至る古墳群が存在する。	
	●本古墳の南側には、史跡恒川官衙遺跡が存在する。	
主要文献	① 下伊那誌編集会 1955 『下伊那史』第2巻・同第3巻	
	② 長野県史刊行会 1983 『長野県史 考古資料編 主要遺跡（南信）』全1巻（3）	
	③ 松尾昌彦 1982 「飯田市周辺における前方後円墳の実測調査」『信濃』第34巻第11号	
	④ 白石太一郎 1988 「伊那谷の横穴式石室」『信濃』第40巻第7号・同第8号	
	⑤ 楠元哲夫 1996 「信濃伊那谷座光寺地区の三石室」『研究紀要』第三集 由良大和古代文化研究協会	
	⑥ 飯田市教育委員会 2007 『飯田における古墳の出現と展開』	
	⑦ 飯田市教育委員会 2012 『飯田古墳群』	
	⑧ 田中裕 2013 「伊那谷の埴輪とその系譜」『飯田古墳群－論考編－』飯田市教育委員会	
	⑨ 飯田市教育委員会 2016 『飯田古墳群範囲確認調査・緊急発掘調査報告書－平成22年度～25年度－』	

1. 高岡第1号古墳（座光寺単位群）

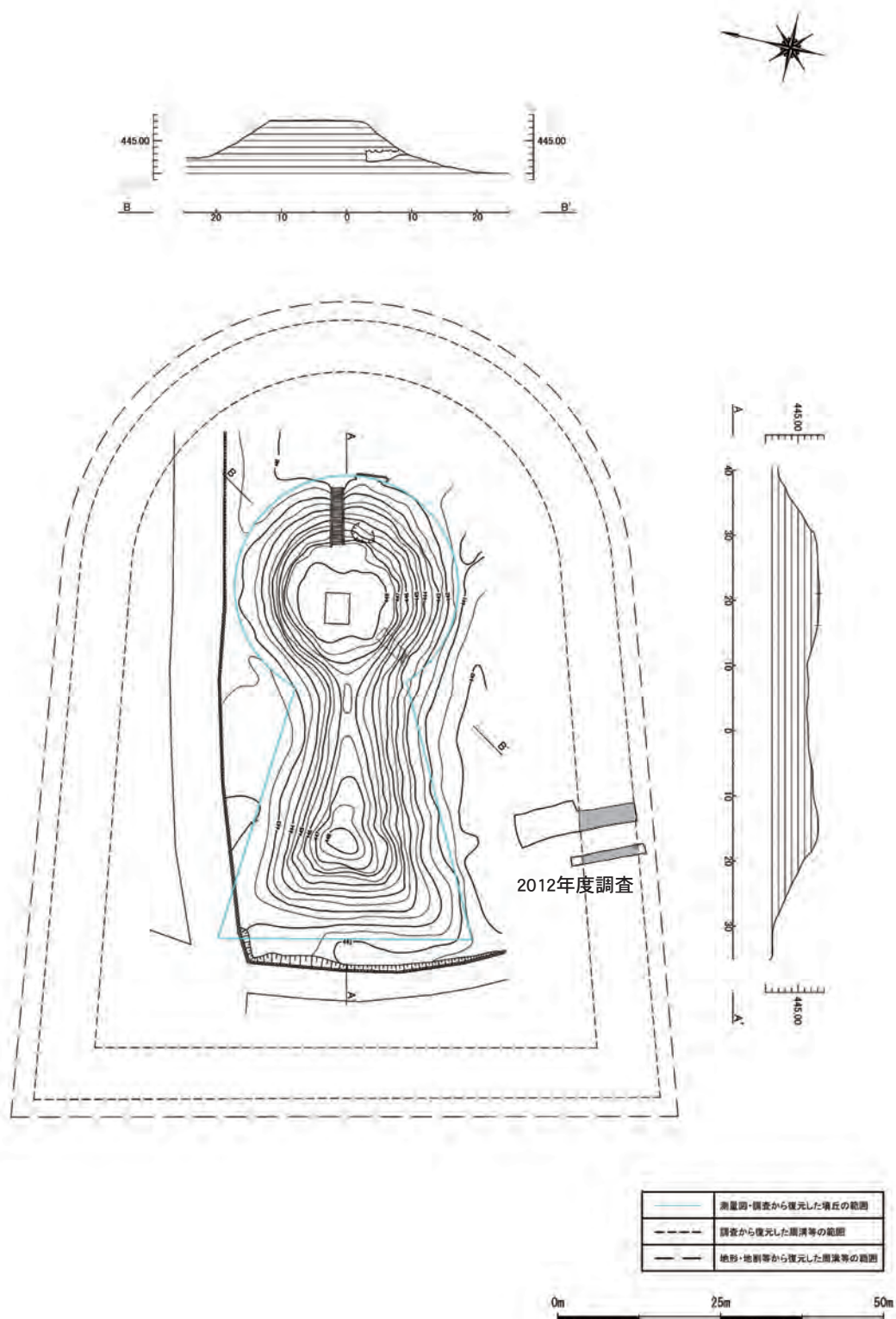


古墳全景（南西側より）



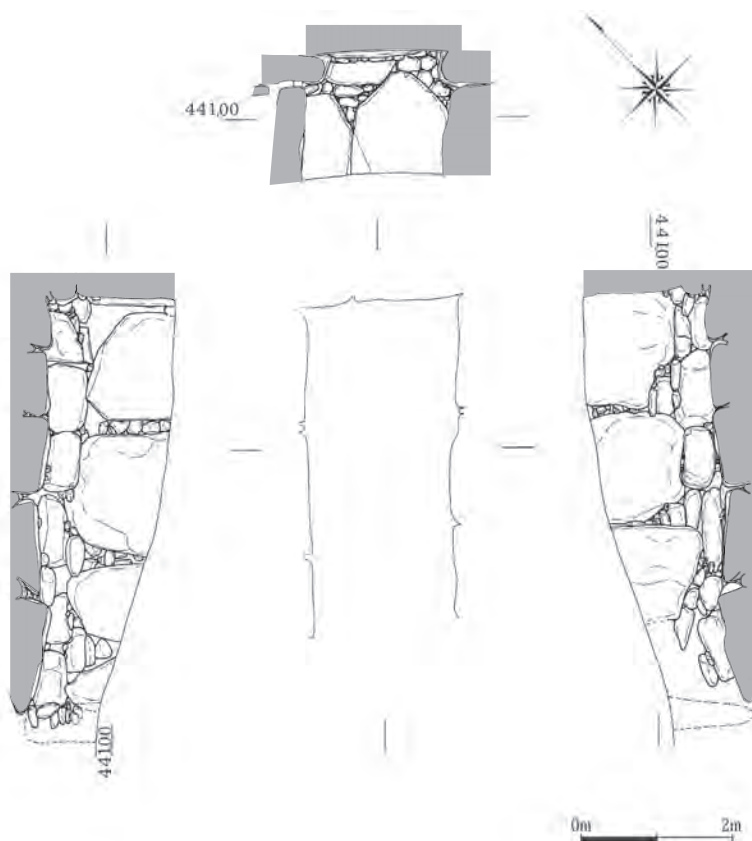
横穴式石室

1. 高岡第1号古墳（座光寺単位群）



墳丘測量図・推定復元図

1. 高岡第1号古墳（座光寺単位群）



横穴式石室実測図



形象埴輪・人物埴輪（表採資料）



前方部南側の周溝の状況
(2012年度調査)

2. 飯沼天神塚（雲彩寺）古墳（上郷単位群）

所在地	飯田市上郷飯沼	
立地	標高430m	地形区分－下段（A2地形）
墳丘	前方後円墳	主軸方向－N22° W 墳丘全長－現状74.5m 現地表からの高さ－後円部8.5m・前方部7.5m
	墳丘の東側は江戸時代（寛政期頃）の寺院建立の際に削平されているが、西側は比較的良好に残る。	
墳丘外表	葺石	後円部に葺石とみられる石が確認できる。
	埴輪	未調査であり、これまでに出土は確認されていない。
埋葬施設	横穴式石室	主軸方向－N105° E 石室－全長12.6m以上 玄室－長さ4.6m以上×幅約2.3m×高さ約1.6m 羨道－長さ約8m×幅0.6～0.8m×高さ0.8m
		後円部墳丘中腹に開口する両袖式横穴式石室で、細長い羨道部を有する。
	墳丘の削平に伴い、奥壁及び側壁の一部が取り除かれ、側壁と天井石の一部が崩落している。崩落を防ぐため、北側の側壁前面に石を積み上げて補修がされている。羨道部は良好に残るが、現在入口は塞がれている。	
外部施設	周溝	未調査
出土遺物	○単鳳環頭柄頭・鉄鏃・銅鈴・鈴・杏葉・雲珠・四鈴鏡・神獸鏡片・金環・丸玉・蜜柑玉・切子玉・白玉・棗玉・小玉・須恵器（坏・平瓶）（文①②）	
調査履歴	『下伊那史』第2巻	墳丘及び石室改変の経緯等、石室内からの遺物出土、古墳名の由来
	1983・1984年	横穴式石室実測調査実施（文⑤）
	2001年度	後円部北側（上郷飯沼3319-2）での試掘調査実施、遺構なし
	2007年度	後円部北側（上郷飯沼3328-7）で立会調査実施、盛土造成工事のため遺構未確認
	2014年度	墳丘測量調査実施
築造時期	古墳時代後期（6世紀前半）	
特記事項	●本古墳の名称は、かつて前方部に天神社があったことから「天神塚古墳」と呼ばれ、また雲彩寺境内地にあることから「雲彩寺古墳」とも呼ばれる。	
	●前方部が細長い墳丘形状は、高岡第1号古墳・御猿堂古墳と共通する。	
	●横穴式石室は、川原石を用いた細長い羨道を有する点に特徴があり、群馬県安中市築瀬二子塚古墳との類似性が指摘されている。	
	●寺院建設の際に、石室内から出土したとされる遺物は、寛政10（1798）年に市岡智寛によって描かれた『雲彩寺所蔵古物之図』に詳しい。現在は、古物之図に描かれた馬鈴2個のほか、金環1個が残る。	
	●本古墳の東側には、溝口の塚古墳（前方後円墳・竪穴式石室・5世紀後半、調査後削平）、番神塚古墳（詳細不明）が所在する。また、南西側に、化石1号古墳（円墳・横穴式石室）・化石2号古墳（円墳・横穴式石室）が所在する。	
主要文献	① 市岡智寛 1798（寛政10）『雲彩寺所蔵古物之図』	
	② 下伊那誌編纂会 1955 『下伊那史』第2巻・同第3巻	
	③ 松尾昌彦 1985 「信濃の馬具」『東日本における古墳時代遺跡・遺物の基礎的研究』	
	④ 長野県史刊行会 1983 『長野県史 考古資料編 主要遺跡（南信）』全1巻（3）	
	⑤ 白石太一郎 1988 「伊那谷の横穴式石室」『信濃』第40巻第7号・同第8号	
	⑥ 飯田市教育委員会 2007 『飯田における古墳の出現と展開』	
	⑦ 飯田市教育委員会 2012 『飯田古墳群』	

2. 飯沼天神塚（雲彩寺）古墳（上郷単位群）



古墳全景（南西側より）



横穴式石室

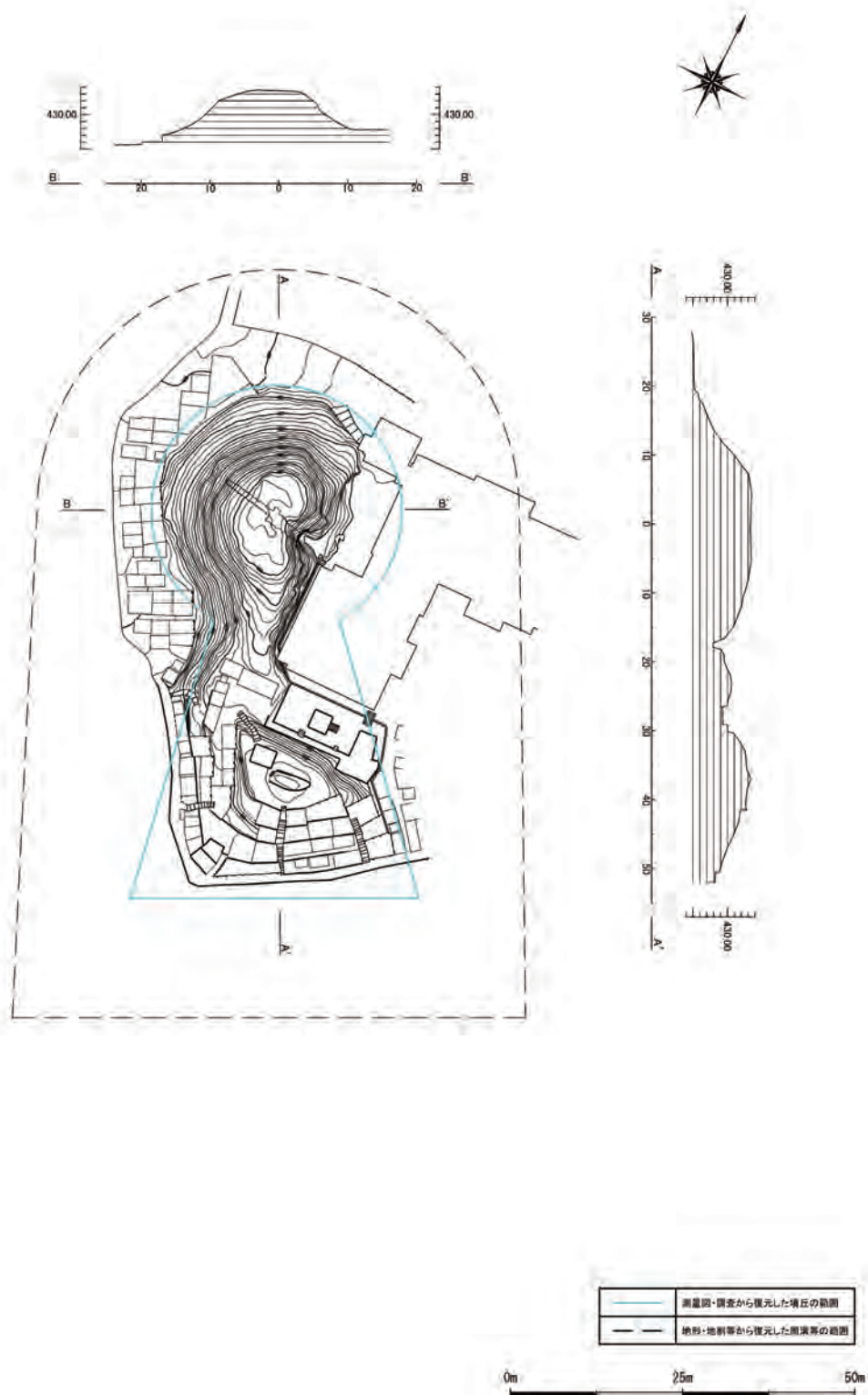


出土遺物（馬鈴）



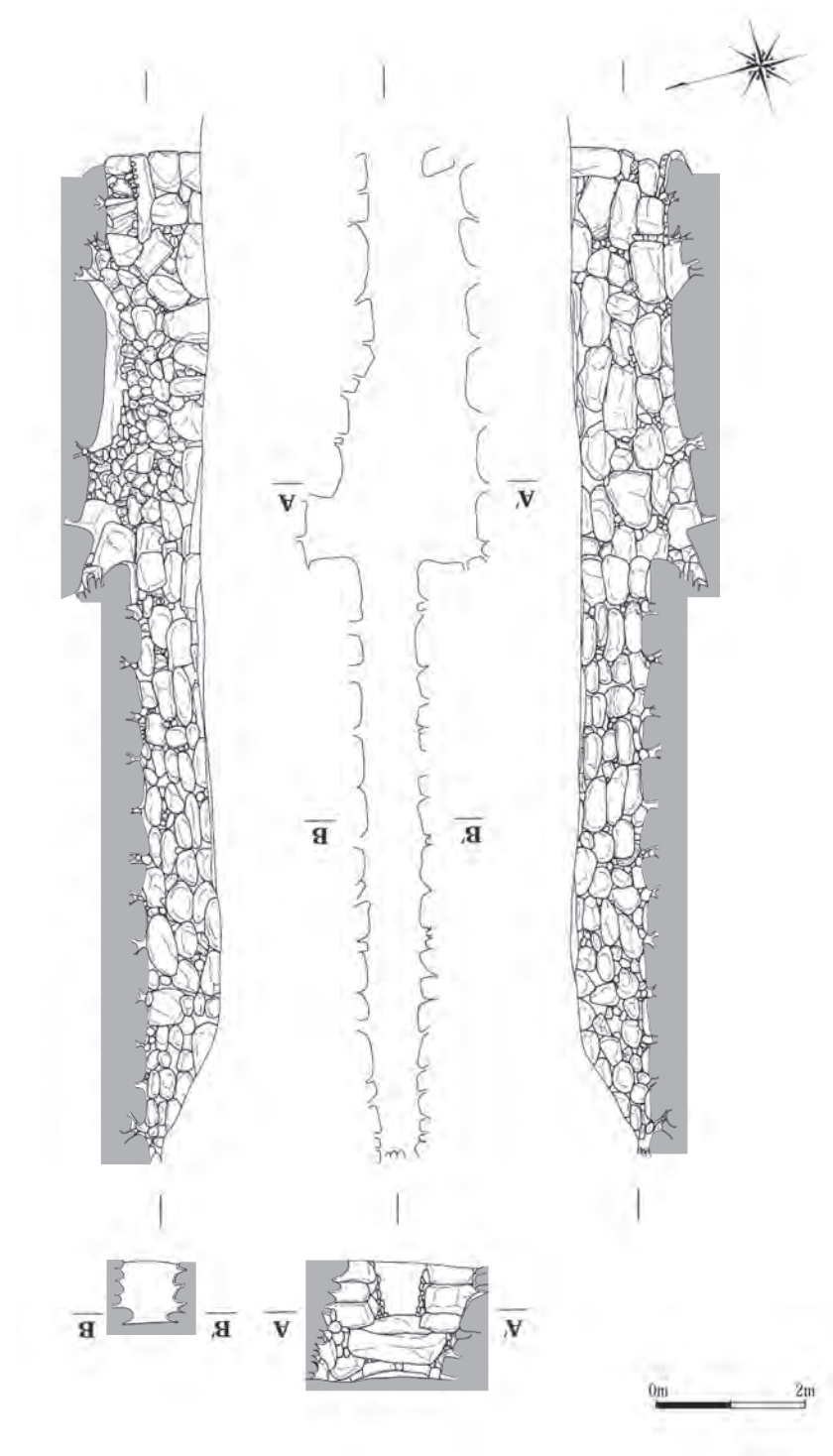
市岡智寛『雲彩寺所蔵古物之図』

2. 飯沼天神塚（雲彩寺）古墳（上郷単位群）



墳丘測量図・推定復元図

2. 飯沼天神塚（雲彩寺）古墳（上郷単位群）



横穴式石室実測図

3. 御射山獅子塚古墳（松尾単位群）

所在地	飯田市松尾久井	
立地	標高450m	地形区分－上段（F2地形）
墳丘	前方後円墳	主軸方向－N64° E 墳丘全長－現状58m 高さ－後円部8m・前方部9.7m
	後円部の一部が削平されているが、比較的良好に残る。	
墳丘外表	葺石	前方部の墳丘表面に葺石とみられる石が確認できる。
	埴輪	出土は確認されていない。
埋葬施設	横穴式石室（推定）	『下伊那史』（文①）の記述によると、後円部に横穴式石室があったが、破壊されて石材は持ち去られたとされる。
	『下伊那史』（文①）では後円部に横穴式石室があったとされるが、現状では確認できない。後円部の東側から墳頂部にかけて窪んだ箇所、埋葬施設が存在が想定されるが、未調査であり、実態は把握できていない。	
外部施設	周溝	後円部東側の調査で確認、埴輪の出土はない（文⑦）。
	外周区画溝	後円部東側の調査では周溝の外側を区画する溝（外周区画溝）は確認されていない（文⑦）。
出土遺物	○（伝）鏡・土師器片・須恵器片（大甕破片）（文①）	
調査履歴	『下伊那史』第2巻	後円部における横穴式石室の存在、石室内からの遺物出土
	1982年	墳丘測量調査実施（文②）
	2013年度	前方部南側（松尾常盤台280-1・280-2）で立会調査実施、過去の造成で遺構は削平
	2016年度	後円部東側（松尾久井386-1）で範囲確認調査実施、周溝を確認（現地保存）（文⑦）
築造時期	古墳時代中期～後期（5世紀末～6世紀）	
特記事項	●『下伊那史』に、かつて横穴式石室があったと記載されている点、墳丘形状が後円部に比して前方部が大きい（発達している）ことから、後期（6世紀）の古墳とされている。	
	●周溝の範囲確認調査では、本古墳の築造時期を特定できる遺物および埴輪の出土はない。	
	●本古墳の北東側には茶柄山3号古墳（前方後円墳）を含む茶柄山古墳群（一部記録保存）が存在する。5世紀後半を中心とする古墳群で、茶柄山9号古墳の周溝やその周囲で馬の埋葬土壙が10基確認されている。	
	●前方後円墳である茶柄山3号古墳と御射山獅子塚古墳とが近接していることから、両者は密接な関係にあると考える。	
主要文献	① 下伊那誌編集会 1955 『下伊那史』第2巻・同第3巻	
	② 松尾昌彦 1982 「飯田市周辺における前方後円墳の実測調査」『信濃』第34巻第11号	
	③ 松尾村誌編集委員会 1982 『松尾村誌』	
	④ 更埴市教育委員会 1992 『史跡 森將軍塚古墳－保存整備事業発掘調査報告書』	
	⑤ 飯田市教育委員会 2007 『飯田における古墳の出現と展開』	
	⑥ 飯田市教育委員会 2012 『飯田古墳群』	
	⑦ 飯田市教育委員会 2019 『飯田古墳群範囲確認調査・緊急発掘調査報告書－平成27年度～29年度－』	

3. 御射山獅子塚古墳（松尾単位群）



古墳遠景（西方を望む） 大正11（1922）年撮影（下伊那教育会 市村文庫）



古墳全景（南西側より） 大正11（1922）年撮影（下伊那教育会 市村文庫）

3. 御射山獅子塚古墳（松尾単位群）

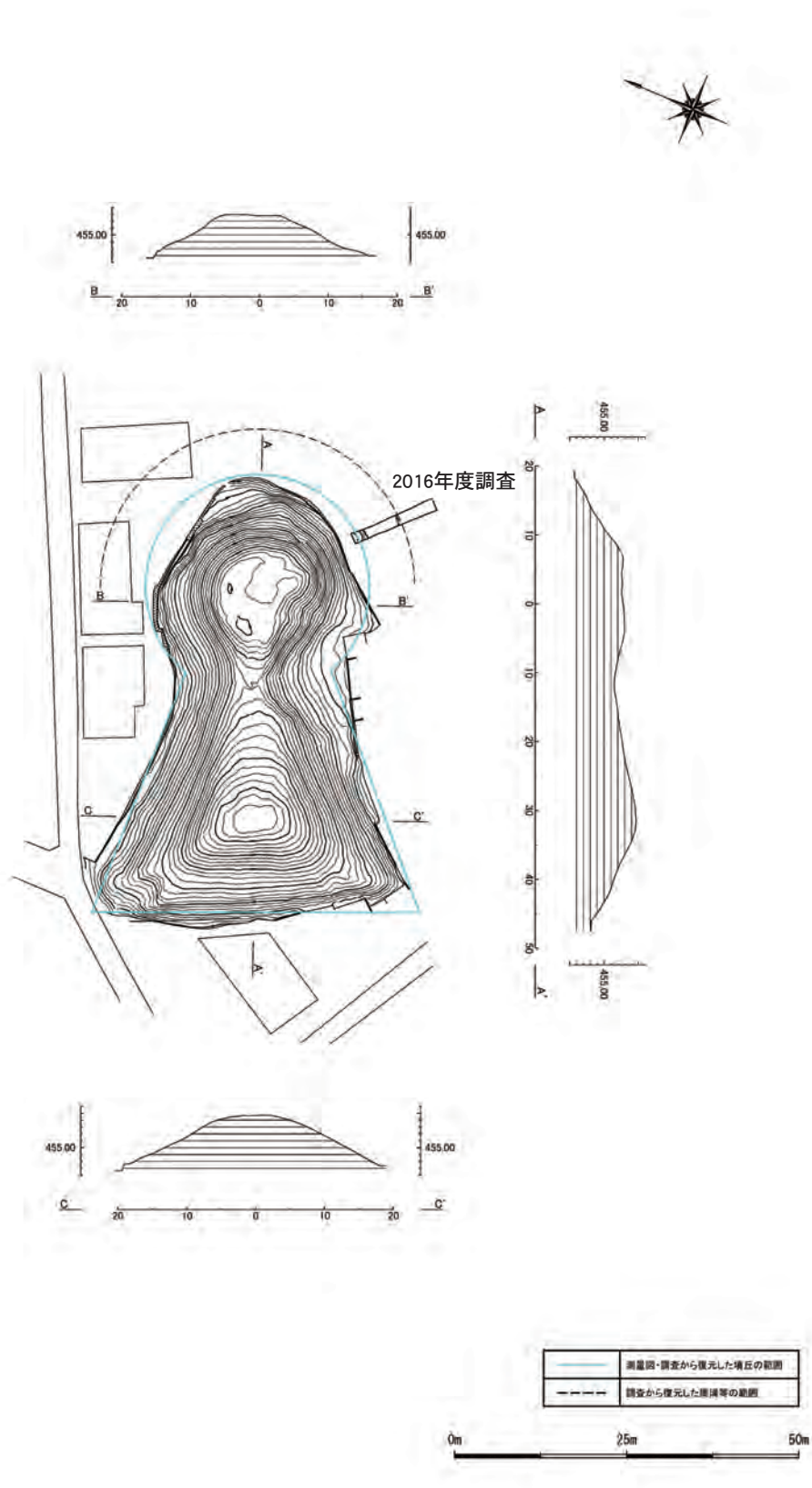


古墳全景（南側より）



後円部東側の周溝の状況
（2016年度調査）

3. 御射山獅子塚古墳（松尾単位群）



墳丘測量図・推定復元図

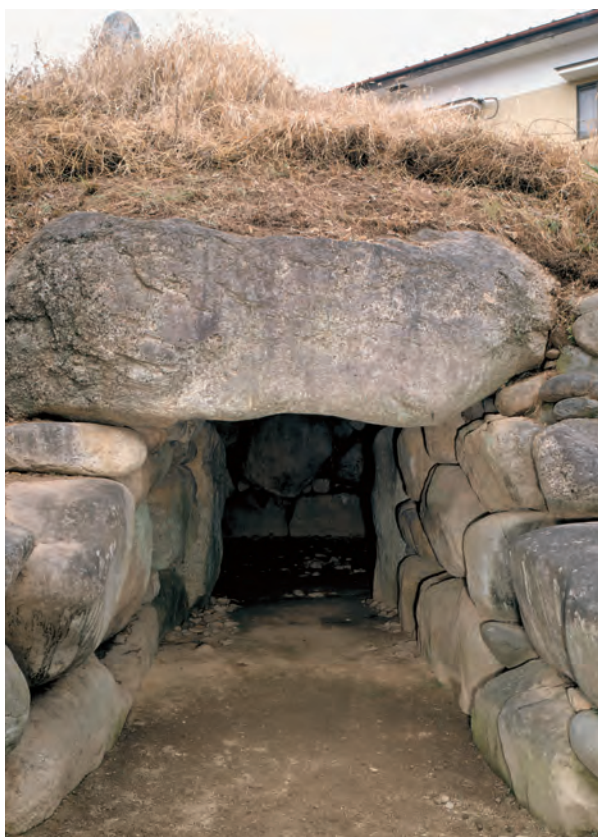
4. おかん塚古墳（松尾単位群）

所在地	飯田市松尾上溝	
立地	標高420m 地形区分－下段（B2地形）	
墳丘	前方後円墳	主軸方向－N120° E 墳丘全長－後円部現状20m（推定50m） 高さ－後円部現状3m
	墳丘の改変が著しく、現在は前方後円墳としての形状を留めていない。西側の墳丘はすべて削平され、東側の墳丘も改変を受けている。『下伊那史』（文①）の記述から、現在残る東側の墳丘が後円部と考えられる。現存する墳丘は20m程度であるが、後円部南東側の調査で、墳丘がさらに南東側に広がることを確認している。	
墳丘外表	葺石	墳丘の削平により確認できない。
	埴輪	調査では確認されておらず、表採資料としても確認されていない。
埋葬施設	後円部(東側)横穴式石室	主軸方向－N12° E 石室全長－10.6m 玄室－長さ4.55m×幅3.23～3.5m×高さ3.4m 羨道－長さ6.05m×幅1.6m×高さ1.9m 後円部墳丘基底部に開口する畿内系両袖式横穴式石室である。
	前方部(西側)横穴式石室	主軸方向－N12° E 石室－全長3.1m以上×幅1.3～1.4m×高さ1.5～1.8m 調査により横穴式石室が確認されている。無袖式の横穴式石室とみられる（文②③）。
	後円部の石室は天井石の一部が改変されているが、比較的良好に残る。前方部は墳丘とともに削平されている。	
外部施設	周溝	未調査
出土遺物	○鉄刀・馬具・鈴・瓔珞・須恵器片他（文①） ○鉄鏃・鹿角装刀子・馬具（飾り金具・轡・杏葉・鉸具）・白玉・須恵器破片（高坏・甕）・土師器破片（高坏）（1966年度調査・文⑤） ○土師器片・須恵器片（2006年度調査・文⑦）	
調査履歴	『下伊那史』第2巻	墳丘形状、規模、墳丘及び石室改変の経緯等の記述、遺物出土
	1966年度	西側墳丘の削平に伴い発掘調査実施、横穴式石室を新たに発見（記録保存）（文②③）
	1982年	後円部の横穴式石室実測調査実施（文④）
	2006年度	後円部の測量調査、横穴式石室羨道部（松尾上溝2805他）の範囲確認調査実施（文⑦）
築造時期	古墳時代後期（6世紀後半）	
特記事項	●後円部と前方部の両方に横穴式石室を有する。後円部と前方部の横穴式石室は構造が異なる。後円部は巨石を用いた畿内系の両袖式横穴式石室で、馬背塚古墳（前方部石室）・塚越1号古墳と共通する。前方部は小規模で無袖の横穴式石室とみられる。	
	●現存する後円部の横穴式石室は、石材が明治末頃に売買され、墳丘及び石室の一部が破壊されかけたが、地権者、地域住民、有識者等の熱意で残されたという経緯がある。墳頂部の「於かむ冢碑」は、それを機に建てられたもの（文①）。	
	●おかん塚古墳は、姫塚古墳、上溝天神塚古墳とともに上溝古墳群を構成する古墳の一つ。3基の前方後円墳は、それぞれ横穴式石室の構造を異にするが、姫塚古墳－上溝天神塚古墳－おかん塚古墳の順に築造されたとみられる。	
主要文献	① 下伊那誌編纂会 1955 『下伊那史』第2巻・同第3巻	
	② 大沢和夫 1966 「おかん塚石室発掘の記」『伊那』6月号	
	③ 大沢和夫 1971 「飯田市のおかん塚」『一志茂樹博士喜寿記念論集』	
	④ 松尾昌彦 1982 「飯田市周辺における前方後円墳の実測調査」『信濃』第34巻第11号	
	⑤ 下伊那誌編纂会 1991 『下伊那史』第1巻	
	⑥ 飯田市教育委員会 2007 『飯田における古墳の出現と展開』	
	⑦ 飯田市教育委員会 2008 『おかん塚古墳』	
	⑧ 飯田市教育委員会 2012 『飯田古墳群』	

4. おかん塚古墳（松尾単位群）



古墳全景（南側より） 大正11（1922）年撮影（下伊那教育会 市村文庫）



横穴式石室（後円部）羨道部（南側より）



横穴式石室（後円部）玄室

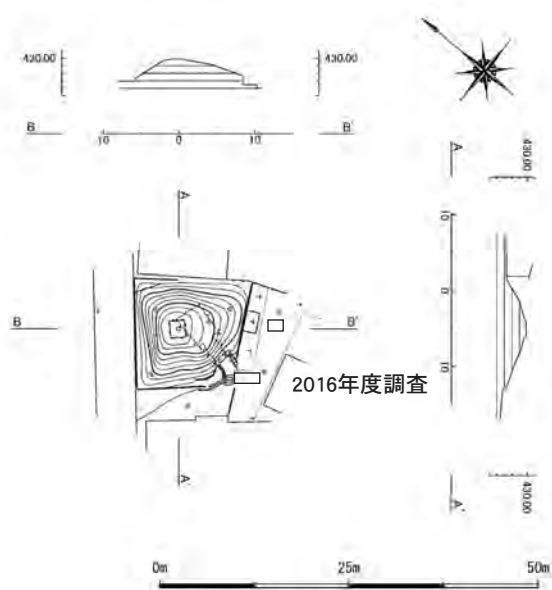
4. おかん塚古墳（松尾単位群）



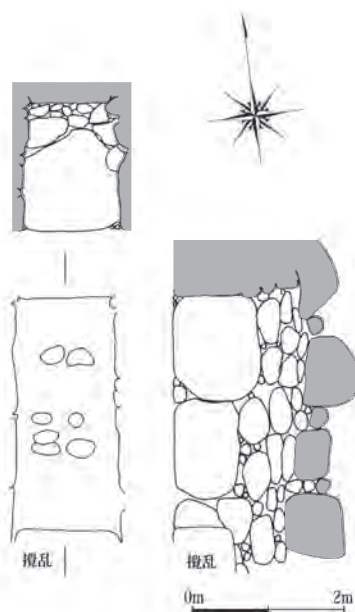
後円部南東側の墳丘盛り土の状況
(2006年度調査)



横穴式石室（前方部）玄室
(1966年度調査)

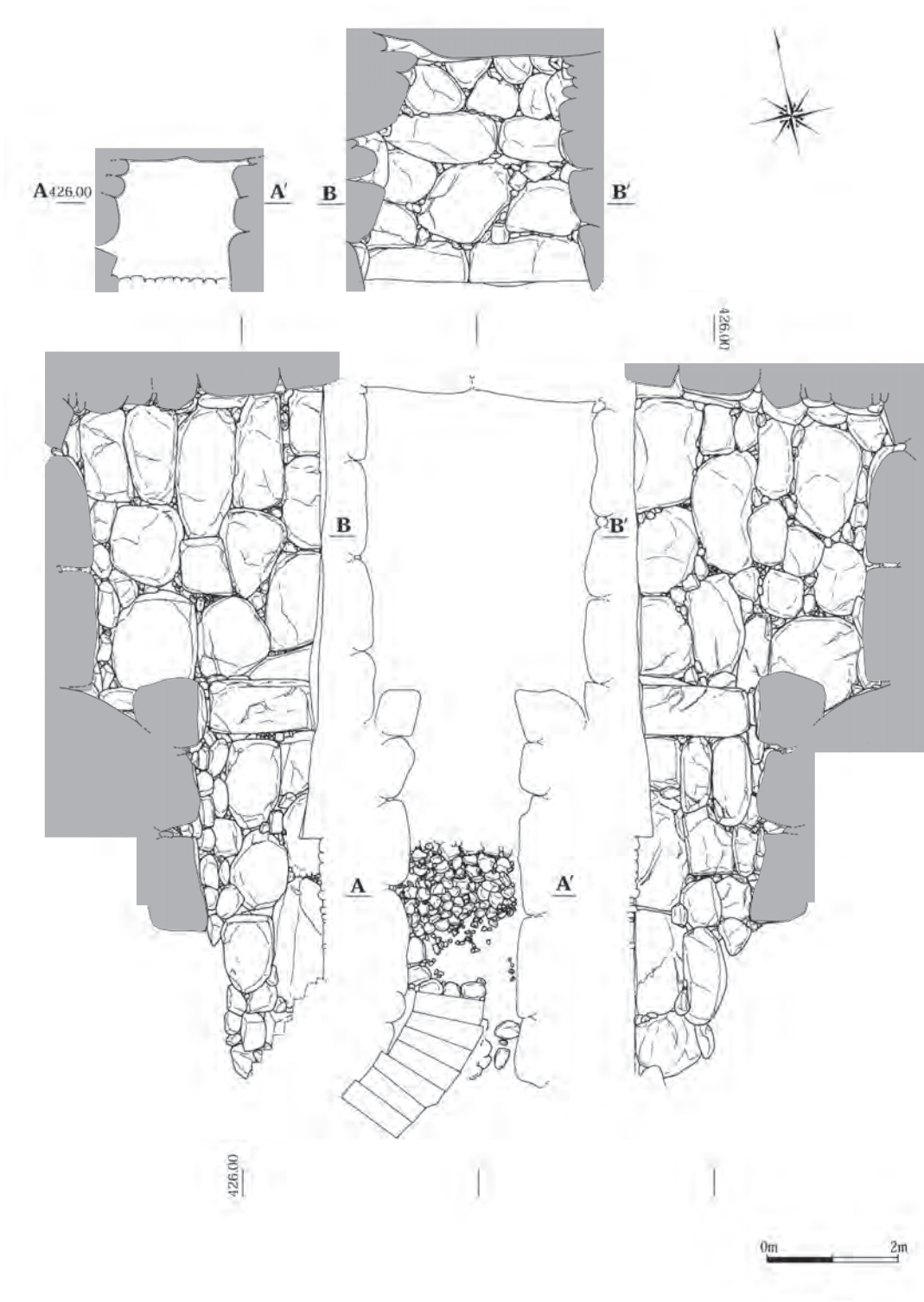


墳丘測量図



横穴式石室（前方部）実測図

4. おかん塚古墳（松尾単位群）



横穴式石室（後円部）実測図

5. 姫塚古墳（松尾単位群）

所在地	飯田市松尾上溝	
立地	標高420m 地形区分－下段（B2地形）	
墳丘	前方後円墳	主軸方向－N60° E 墳丘全長－現状40m 高さ－後円部5.4m・前方部5.2m
	墳丘は後世の改変が著しく、本来の形状を留めない。墳丘及び周辺が未調査であるため、本来の形状を復元することは難しい。後円部は、現存する横穴式石室の位置が墳丘の東側に偏していることから、北東側が大きく削平されている可能性がある。前方部は南東側と前端部が削平されている。	
墳丘外表	葺石	調査で確認した。
	埴輪	表採資料としても確認されていない。
埋葬施設	横穴式石室	主軸方向－真南に開口 石室全長－4.2m以上 玄室－長さ2.9m以上×幅1.8m×高さ1.4m 羨道－長さ1.3m以上×幅1.1m×高さ1.2m
		後円部墳丘中腹に開口する片袖式横穴式石室で、内部の赤彩が良好に残る。
	横穴式石室は、羨道部の上に石橋が架けられ、後円部上の祠への参道として利用されている。そのため、入口部分の天井石が取り除かれ、羨道部の両側壁が一部積み替えられている。袖部から玄室にかけては比較的良好に残っており、赤彩も残る。	
外部施設	周溝	後円部南東側の調査で周溝を確認した。
出土遺物	〇七鈴鏡（文①）	
調査履歴	『下伊那史』第2巻	墳丘及び石室改変の経緯、遺物出土の状況
	1983・1984年	横穴式石室実測調査実施
	2014年度	墳丘測量調査実施
	2019年度	後円部南東側（松尾上溝3365-2）で範囲確認調査実施
築造時期	古墳時代後期（6世紀前半）	
特記事項	●墳丘は後世の改変を受けており、本来の形状は復元できない。現存する横穴式石室の位置や主軸方向から、本来の墳丘規模は現状よりも大きくなるとみられる。	
	●横穴式石室は、川原石を積み上げた片袖式の構造で、天井石の架け方に特徴がある。	
	●石室用材に川原石を多用することから、飯沼天神塚（雲彩寺）古墳の石室との類似性が指摘されている（文②）。しかし、羨道部・袖部の構造や、天井石の架け方等で相違点も多い。	
	●七鈴鏡は、享保年間以前に前方部から出土したと伝えられる（文①）。	
	●姫塚古墳は、おかん塚古墳、上溝天神塚古墳とともに上溝古墳群を構成する古墳の一つ。3基の前方後円墳は、それぞれ横穴式石室の構造を異にするが、姫塚古墳－上溝天神塚古墳－おかん塚古墳の順に築造されたとみられる。	
主要文献	① 下伊那誌編纂会 1955 『下伊那史』第2巻・同第3巻	
	② 白石太一郎 1988 「伊那谷の横穴式石室」『信濃』第40巻第7号・同第8号	
	③ 飯田市教育委員会 2007 『飯田における古墳の出現と展開』	
	④ 飯田市教育委員会 2012 『飯田古墳群』	
	⑤ 飯田市教育委員会 2016 『飯田古墳群範囲確認調査・緊急発掘調査報告書－平成22年度～26年度－』	

5. 姫塚古墳（松尾単位群）



古墳全景（北西側より） 大正11（1922）年撮影（下伊那教育会 市村文庫）



古墳全景（南東側より）

5. 姫塚古墳（松尾単位群）

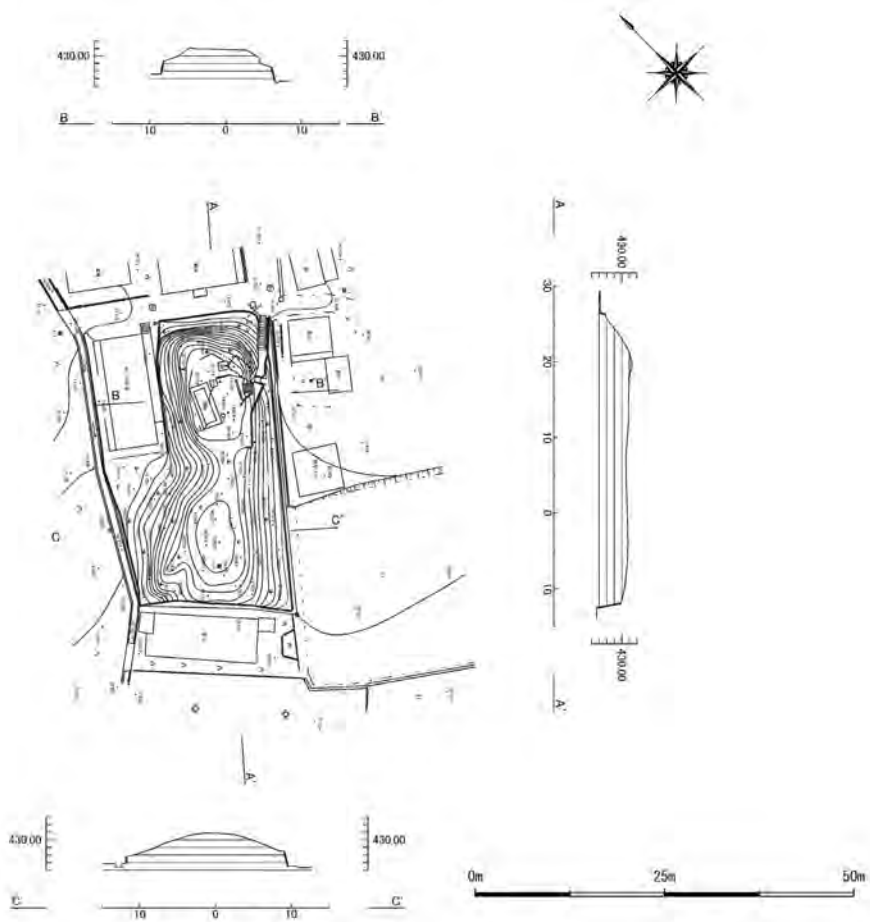


上溝天神塚古墳から姫塚古墳を望む

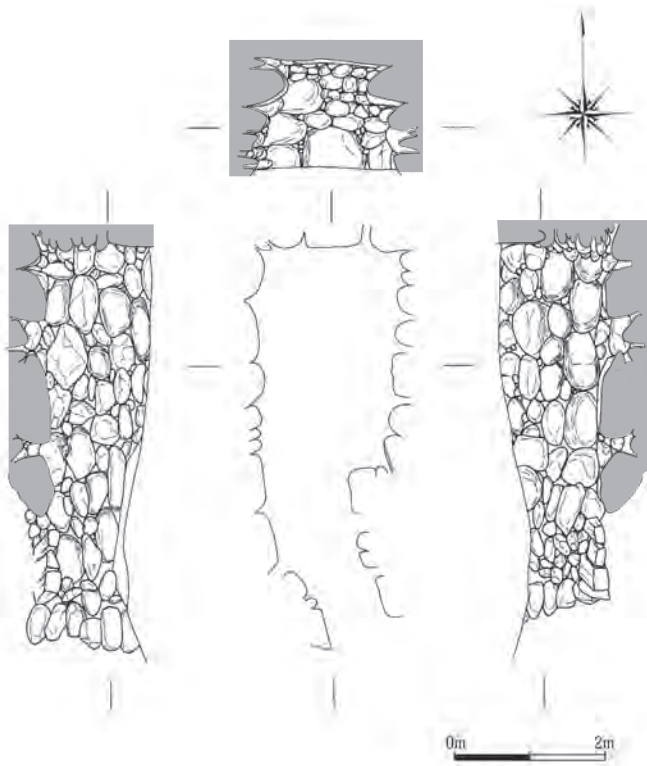


横穴式石室

5. 姫塚古墳（松尾単位群）



墳丘測量図



横穴式石室実測図

6. 上溝天神塚古墳（松尾単位群）

所在地	飯田市松尾上溝	
立地	標高420m	地形区分一下段（B2地形）
墳丘	前方後円墳	主軸方向－N78° E 墳丘全長－現状40m（推定41.5m） 高さ－後円部7.9m・前方部現状2.7m
	墳丘は改変が著しく、本来の形状を留めない。後円部は、横穴式石室の位置から、墳頂部から東側にかけて大きく削平されているとみられる。前方部は、北側の調査で一部墳裾を確認している（文③④）。	
墳丘外表	葺石	前方部北側の調査で確認している（文③）。
	埴輪	調査で確認されず、表採資料としても確認されていない。
埋葬施設	横穴式石室	主軸方向－N18° E 石室全長－約10.8m 玄室－長さ7.7m×幅2.4～2.7m×高さ2.6～3.0m 羨道－長さ3.0m×幅1.8m×高さ2.2m
		後円部墳丘中腹に開口する無袖式横穴式石室である。石室の確認調査では、石室内は中世の火葬墓等による攪乱を受けていたが、閉塞石が残存しており、閉塞石下の床面も一部残っていた（文④）。
	横穴式石室は比較的良好に残るが、石室の入口部分の一部が崩落し、調査後に復旧工事を実施している。そのため、現在の石室は入口部分の天井石と側壁の一部を積み直しており、石室内の床面の石も大部分が後補のものである。	
外部施設	周溝	前方部北側の調査で周溝を確認したが、埴輪は出土していない（文③④）。
	外周区画溝	前方部北側の調査で、周溝の外側を区画する溝（外周区画溝）を確認した（文③④）。
出土遺物	○鏡・鉄鏃・柄頭か（文①） ○土師器(坏・高坏)・須恵器片（1983年度調査） ○鉄鏃・刀装具（銀製圭頭柄頭・鏢・責金具等）・馬具（板状立開環状鏡板付轡・引手他・辻金具・鉸具・鞍金具等）・帯金具垂飾部・金環・玉類（銀製空玉・銀製山柵玉・金銅製山柵玉・大小ガラス玉・漆玉・管玉・白玉）・土師器片(暗文土器)・須恵器片(装飾付須恵器他）（1991年度調査・文④）	
調査履歴	『下伊那史』第2巻	墳丘及び石室改変の経緯
	1983年度	前方部北側（松尾上溝3381・3383-2）の発掘調査で、墳丘盛り土と周溝を確認（記録保存）（文③④）
	1983・1984年	横穴式石室実測調査実施
	1991年度	横穴式石室一部崩落に伴う石室内の確認調査と石室実測調査実施、調査後は復旧工事実施
	2017年度	墳丘測量調査実施
築造時期	古墳時代後期（6世紀中葉）	
特記事項	●前方部は発掘調査により形状の復元が可能である。さらに、前方部北側の調査で、周溝及び外周区画溝を確認している（文③）。後円部は未調査であるため溝は確認できていない。	
	●前方部前端部で墳丘盛り土の一部を調査しており、土塊を積み上げた状況等を確認している（文③④）。	
	●横穴式石室は、花崗岩の大型自然石を積み上げた無袖式の構造である。石室内の発掘調査によると、攪乱を受けていたが、羨道部寄りで遺物が多数出土しており、8世紀まで追葬ないしは祭祀行為が行われていたとみられる。	
	●上溝天神塚古墳は、おかん塚古墳、姫塚古墳とともに上溝古墳群を構成する古墳の一つ。3基の前方後円墳は、それぞれ横穴式石室の構造を異にするが、姫塚古墳－上溝天神塚古墳－おかん塚古墳の順に築造されたとみられる。	
主要文献	①	下伊那誌編纂会 1955 『下伊那史』第2巻・同第3巻
	②	白石太一郎 1988 「伊那谷の横穴式石室」『信濃』第40巻第7号・同第8号
	③	下伊那誌編纂会 1991 『下伊那史』第1巻
	④	飯田市教育委員会 2007 『飯田における古墳の出現と展開』
	⑤	飯田市教育委員会 2012 『飯田古墳群』
	⑥	土生田純之 2013 「伊那谷における横穴式石室の一考察」『飯田古墳群－論考編－』飯田市教育委員会

6. 上溝天神塚古墳（松尾単位群）



古墳全景（西側より）



古墳全景（東側より）



横穴式石室

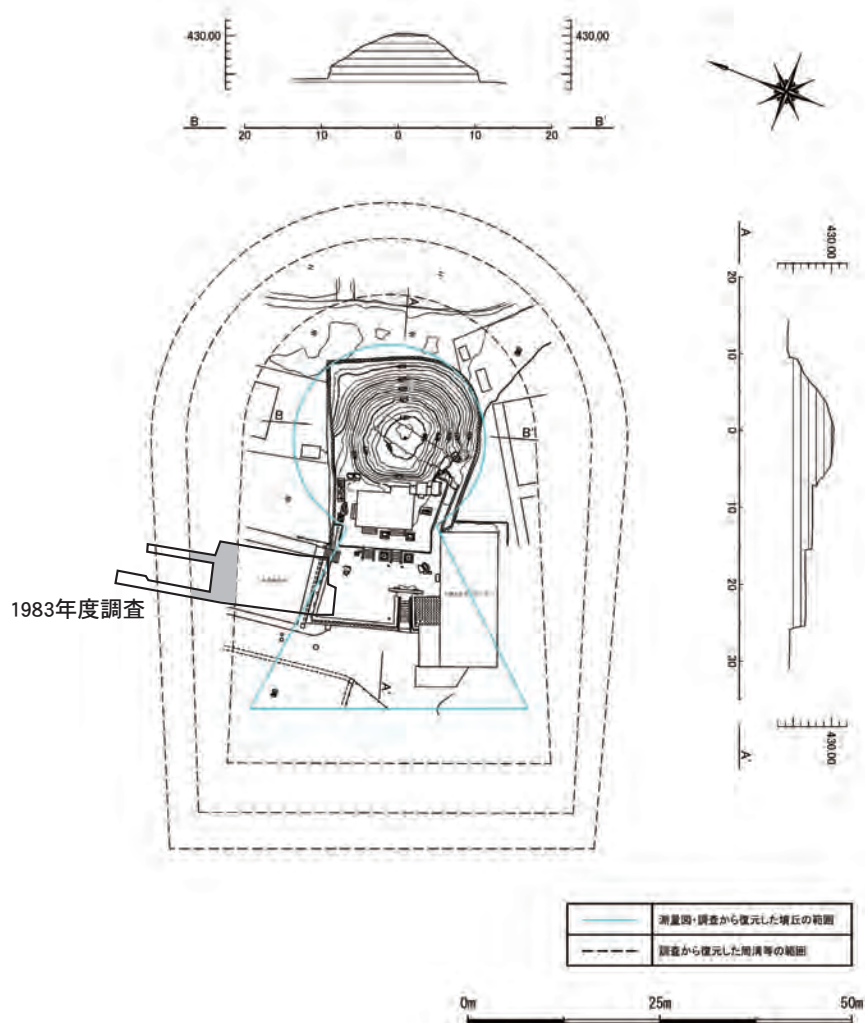


出土遺物
(上から－金銅製帯金具・銀製圭頭柄頭・
馬具〈轡〉・馬具〈鞍金具・飾金具〉)

6. 上溝天神塚古墳（松尾単位群）

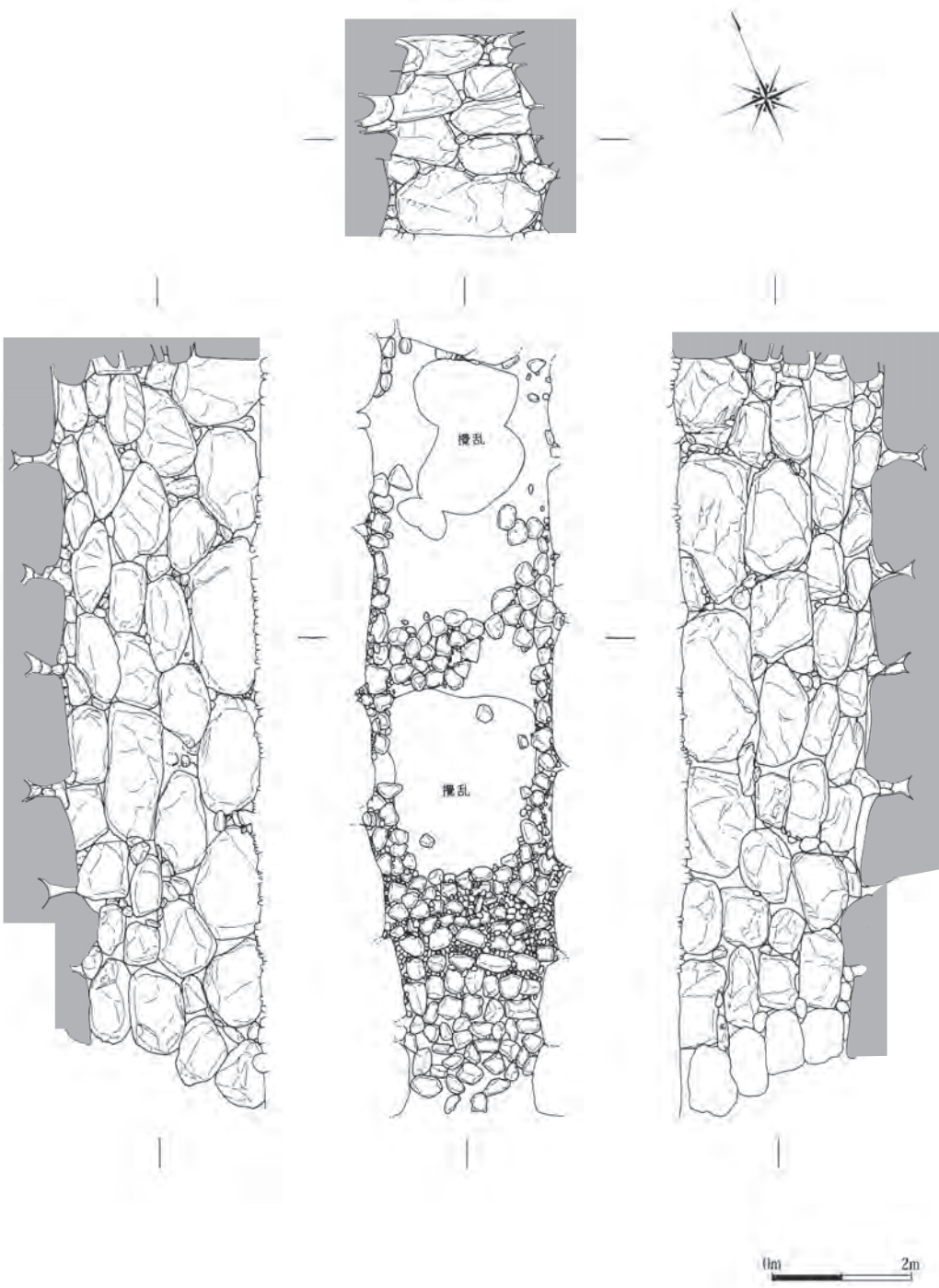


前方部の調査状況
(1983年度調査)



墳丘測量図・推定復元図

6. 上溝天神塚古墳（松尾単位群）



横穴式石室実測図

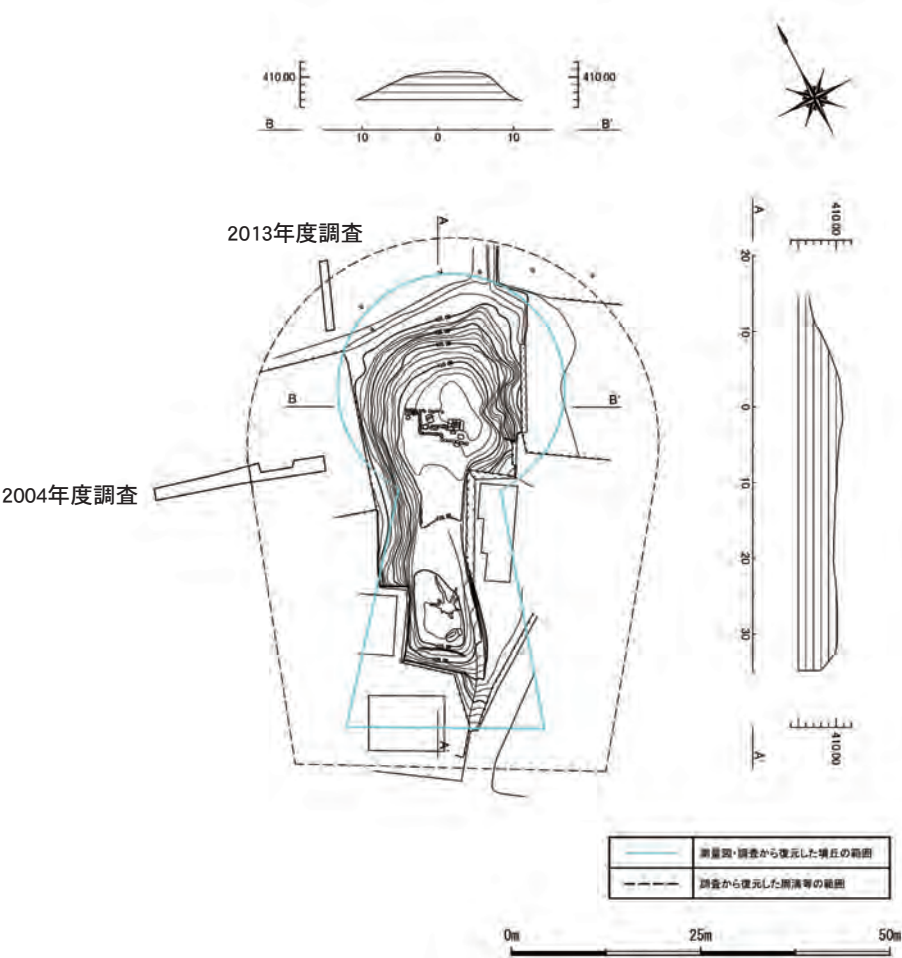
7. 水佐代獅子塚古墳（松尾単位群）

所在地	飯田市松尾水城	
立地	標高405m	地形区分－下段（B2地形）
墳丘	前方後円墳	主軸方向－N28° E 墳丘全長－現状60m 高さ－後円部4m・前方部4m
	墳丘は改変が著しく、本来の形状を留めない。後円部は北側と東側が削平されているが、西側の墳丘からくびれ部にかけては本来の形状が比較的保持されている。前方部は、2/3以上が削平されている。前方部墳丘上に、飯田市指定天然記念物「水佐代獅子塚のエドヒガン」がある。	
墳丘外表	葺石	後円部北側を中心に墳丘表面に葺石とみられる石を確認した。
	埴輪	円筒埴輪の出土が確認されている（表採・文⑥）。
埋葬施設	石室	『下伊那史』（文①）では後円部に石室があるとされているが構造は不明である。
	『下伊那史』（文①）には、後円部に石室があったとの記述があるが、構造は明記されていない。現状では埋葬施設を確認できず、竪穴系や横穴系かの判断はできない。	
外部施設	周溝	後円部北側・西側の調査により周溝を確認した。
	外周区画溝	後円部西側・北側の調査では周溝の外側を区画する溝（外周区画溝）は確認されていない（文⑥）。
出土遺物	○鉄刀・須恵器片（文①） ○鉄刀・鉄矛・鉄鏃・馬具他（文②） ○土師器片・須恵器片（2010年度調査・文⑥）	
調査履歴	『下伊那史』第2巻	石室の所在及び発掘の経緯
	2004年	前方部南側（松尾水城3460-2）の確認調査で当該地が周溝内になることを確認
	2004・2005年	後円部西側（松尾水城3461-3・3462-1）の範囲確認調査で周溝を確認（現地保存）
	2006年度	墳丘測量調査実施（文④）
	2010年度	前方部西側（松尾水城3457）の石垣修理に伴う立会調査を実施、盛り土の一部を確認（文⑥）
	2013年度	後円部北側（松尾水城3465-1）の範囲確認調査で周溝を確認（現地保存）
築造時期	古墳時代中期（5世紀後半）	
特記事項	●墳丘の改変が著しく、本来の墳丘形状を復元することは難しい。	
	●墳丘上に比較的大型の石が散見されることから、石室の存在が想定され、『下伊那史』（文①）にも石室の存在が記されている。しかし、横穴式石室であれば、後円部の東側に開口部が位置する可能性が高いが、現時点で横穴式石室の存在を示すものは確認できない。	
	●埋葬施設は未確認であるが、埴輪の出土や立地、出土遺物等から5世紀後半の築造と考える。	
	●松尾単位群に属する前方後円墳は埴輪を伴わないものが多いが、水佐代獅子塚古墳と代田獅子塚古墳は埴輪を有する点に特徴がある。	
主要文献	① 下伊那誌編纂会 1955 『下伊那史』第2巻・同第3巻	
	② 松尾村誌編纂委員会 1982 『松尾村誌』	
	③ 飯田市教育委員会 2007 『飯田における古墳の出現と展開』	
	④ 東海大学文学部歴史学科考古学第1研究室 2009 『長野県下伊那郡阿智村狐塚1号古墳の調査』	
	⑤ 飯田市教育委員会 2012 『飯田古墳群』	
	⑥ 飯田市教育委員会 2016 『飯田古墳群範囲確認調査・緊急発掘調査報告書－平成22年度～26年度－』	

7. 水佐代獅子塚古墳（松尾単位群）



古墳全景（南側より）



墳丘測量図・推定復元図